

属性No	H-4	地震名	宝永	市町村名	西条市	整理No.	1/1
西 暦		和 暦		記載文献1	記載文献2	記載文献3	
年	月日	年	月日	歴史地震, Vol.19, 2003	新収日本地震史料 補遺 別巻, 1989		
1707	10.28	宝永4	10.4				
記 載 内 容				現 地 調 査 結 果			
地 名	新田133-1			位置座標	133° 11' 30.81"		
津波高 記載の有無	○・無				33° 55' 47.52"		
津波高 (尺寸)				地盤高 (m)	1.85		
m換算	1~2 (山本)			その他			
文 献 抜 粋				現 地 写 真			
<p>[山本尚明：瀬戸内海の歴史南海地震津波について，歴史地震，Vol.19，2003，pp.154-157]より転載 西条：宝永四年一〇月大地震による津浪のために、この新田（元禄四年春，甚左衛門によって深の洲に築かれた新田「深の洲外新田」を言う。）は木村家の居宅と共に決潰した。⇒よりH1~2mと推定</p>							
<p>[新収日本地震史料補遺別巻，1989，pp.213]より転載 〔西条市誌〕愛媛県S41・11・3 久門範政編著 西条市発行： 近江屋新開 近江屋新開は，室川の西岸，市塚部落の西方を占める地域である。一柳直重が西条開市の時に，大町から城下町に移った近江屋は，寛文中，徳助・与兵衛の兄弟が朔日市村の北の沖，市塚の外に二ヶ所の新田を築き，与兵衛の子甚左衛門も延宝年間にこれに連る新田を造った。これらをそれぞれ開拓者の名を冠して「徳助新田」，「与兵衛新田」，「甚左衛門新田」と称し，以上三ヶ所の新田合して十町二反余，藩政の頃の高六十四石余である。 元禄四年春与兵衛，甚左衛門兩人によって深の洲（ふかのす）に新田を築き，先の甚左衛門新田を「深の洲内（うち）新田」といい，これを「深の洲外（そと）新田」と呼んだ。（今は鱧（ふか）の字を用いる）しかるに宝永四年一〇月大地震による津浪のために，この新田は木村家の居宅と共に欠潰したので，翌年復旧工事に着手し，六年に完成したが，この年の秋，また高潮のため，深の洲内外の新田堤防が破潰して，海中に没してしまっ。木村家の旧記を見ると度々の災害について「自力に及ばないので，そのままにしておいた」と記してある。</p>							
備 考							
位置座標：痕跡地点の位置詳細は不明のため“（新田に位置する）西条警察署”を位置設定とし，Web-GISで検索。							

現地状況写真



属性番号 H-4

位 置 西条市新田 1 3 3 - 1

写真番号 1

記 事 :

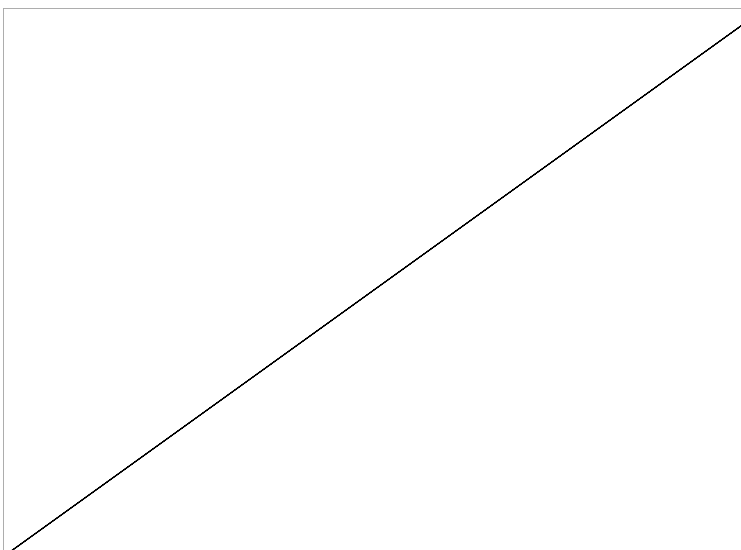


属性番号 H-4

位 置 西条市新田 1 3 3 - 1

写真番号 2

記 事 :



属性番号 _____

位 置 _____

写真番号 _____

記 事 :
